

DX 推進の進捗状況について（2026年3月現在）

株式会社ポータス
代表取締役社長 栗林周次

私たちが掲げる DX 推進の進捗状況について、以下の通りお知らせいたします。

■顧客対応力強化に向けたDX

当社は最前線にいる営業の提案からサポートまで全ての活動を高度化していくために、システム基盤を刷新・強化して参ります。

新しいシステム基盤では、これまで個々に管理されていた導入システム・導入機器・提案内容、サポート情報等、社内のあらゆるデータを一元化し、お客様の状況を見える化します。

特にお客様からの電話によるお問合せについても、受付内容を自動でデータ化し、発生した問題の回答を管理できるようにすることで受付漏れを防止し、さらにはお客様への過去の納品履歴（サーバ、交換機、UTM）からリプレイス提案のpush通知やリース終了時のアラートを自動的に営業担当に発信させることで、提案機会損失を抑え、顧客接点の強化につなげて参ります。

<2026年度達成目標>

お客様情報の整備と共有・活用	全ユーザの70%作成
DX共通DBの活用による量販売上増	5%増/2025年基準

○現在の進捗状況

2025年3月より全社にて利用開始
ブラッシュアップを重ね、継続的な改善を実施中

■品質向上に向けたDX

従来、開発プロジェクトではExcelによる課題管理をプロジェクトメンバーのみで管理されており、全体としては共有化されておらず、開発におけるノウハウは個々人の技能、経験、知識に依存する傾向にありました。

当社は開発部門のさらなる品質向上に向けて、情報を共有するナレッジデータベースを立ち上げて参ります。

システム開発におけるプロセスをデータ化し、バグや問題が発生しやすいフェーズを見極め、あらかじめ対策を講じることにより、後戻り工数等のムダを排除するなど生産性を向上させて参ります。

この活動により開発担当者のスキル向上、平準化につなげ、最終的には開発担当者の個々人の育成につなげて参ります。

<2026年度達成目標>

開発情報の整備と共有・活用	全物件100%作成
DX共通DBの活用による開発工数	5%減/2025年基準

○現在の進捗状況

2025年4月よりシステム開発グループから段階的に利用を開始
試行・検証を行いながら、運用定着に向けた改善を継続中

■データセンターにおけるDX

当社のデータセンターにおいては最新の技術を積極的に活用し、DC監視の自動化としてはRPA、監視システム導入による24H/365日の監視、障害時の通報やカメラ監視+AIによる目視業務の自動化を目指しております。

また、DC設備(室温・電気)の管理においても、IoTセンサによる室温調整を自動的に行い、カーボンニュートラル実現を目指します。

<2026年度達成目標>

DX活用による作業時間

10%減/2025年基準

○現在の進捗状況

2024年11月よりRPAを活用したDC監視の自動化を開始、実績収集中
2次ステップとしてサーバ監視ツールを導入、評価運用中

■人材育成・組織能力強化への取り組み

当社は戦略実現に必要な人材育成への取り組みを以下のステップで行います。

- ・DXテクノロジー専門領域については社員育成プログラムの検討を開始しました。
- ・社員全体のDXリテラシー向上を図るべく、DX検定受講を推奨して参ります。

<具体的な育成人数>

- ・2023年度 DX関連資格 5名取得
- ・2024年度 DX関連資格 15名取得
- ・2025年度 DX関連資格 20名取得

DX関連資格取得者数：50% (40名/全80名)

○現在の進捗状況

2023年度実績 DX関連資格合格者 6名

2024年度実績 DX関連資格合格者 10名

2025年度実績 DX関連資格合格者 11名

現在、3ヵ年目標40名取得に向けて各種試験合格にチャレンジしております。